

講演概要

「中国の対外政策と諸外国の対中政策」研究会
年度末公開シンポジウム（2019年2月20日（水）13:30～17:00、於当研究所大会議室）



<概要>

○日時：2019年2月20日（水）13:30～15:30

○会場：日本国際問題研究所大会議室

○プログラム（敬称略）：

- ・開会の辞 中山 泰則（当研究所所長代行）
- ・主査による趣旨説明 高原 明生（東京大学教授／当研究所上席客員研究員）

〔第1部 米国の対中政策と中国の対応〕（司会：中山 泰則（当研究所所長代行）

- ・報告①「トランプ政権2年目における米国の対中認識・政策」梅本 哲也（静岡県立大学教授）
- ・報告②「米中対立と中国外交」高原 明生（東京大学教授／当研究所上席客員研究員）
- ・質疑応答

〔第2部 中国情勢〕（司会：倉田 秀也（防衛大学校教授／当研究所客員研究員）

- ・報告①「米中対立と中国経済」伊藤 亜聖（東京大学准教授）
- ・報告②「習近平政治の現在と米中対立」角崎 信也（当研究所研究員）
- ・質疑応答

〔第3部 東アジアの国際秩序〕（司会：高原 明生（東京大学教授／当研究所上席客員研究員）

- ・報告①「米中『新冷戦』と朝鮮半島」倉田 秀也（防衛大学校教授／当研究所客員研究員）
- ・報告②「米台関係と台湾の安全保障」阿部 純一（霞山会常任理事・研究主幹）
- ・質疑応答

- ・総括 倉田 秀也（防衛大学校教授／当研究所客員研究員）

<内容>

日本国際問題研究所は、外務省外交・安全保障調査研究事業（『自由で開かれた国際秩序』の強靱性）の一環として、中国の対外政策とそれに対する諸外国の反応の相互作用が既存の国際秩序に及ぼす影響を与えることになるかを考察する研究プロジェクト（「中国の対外政策と諸外国の対中政策」）を、これまで2年間わたり実施してきました。本シンポジウムは、その研究成果の一部を公開し、参加者から広く意見を募ることで、調査研究をいっそう充実したものにするために開催されたものです。

本シンポジウムでは、2017年の末ごろより大きく展開している米中関係を共通のトピックとして、それをめぐる中国国内情勢ならびに東アジア国際秩序の趨勢を議論しました。第一部では、トランプ政権の対外政策と習近平政権の対外政策に関する分析が披露され、それぞれの対外政策の相克の観点から米中二国間関係が議論されました。第二部では、米中対立の顕在化が、中国の経済と政治に及ぼす影響を及ぼしているか（及ぼしつつあるか）に関する発表が行われ、中国経済の情勢や情報管理、習近平政権の安定性などについて議論が展開されました。第三部では、米中対立の構図が朝鮮半島情勢や台湾海峡情勢に及ぼすインパクトを持つかを主題とする報告が行われ、北朝鮮の非核化をめぐる情勢や台湾政治の状況などを含む、両地域の現状と展望に関する多くの知見が披露されました。

当日は約130名の聴衆が参席し、上記の論点を含む幅広い質問が寄せられ、活発な議論が展開されました。

（以上）